

編集後記

▼『現代宗教研究』第五十八号をお届けします。

▼『教化学研究』は廃刊となり、今回から『現代宗教研究』に合併されましたので、「教化学研究発表大会」の発表等につきましては今号に収載しております。

▼今号収載の諸研究論文につきまして、山内寛久師と坂輪宣政師の論文は投稿、中井本蒼師、小池政之師、三原正資師、森下恵王師、玉木晃仁師の研究は「第二十四回日蓮宗教化学研究発表大会」における発表が基になっています。

▼第五十六回中央教化研究会議は、令和五年（二〇二三）九月七日・八日、「旧統一教会をめぐる諸問題」というテーマで宗務院において開催されました。令和元年以来久々の対面方式となりました。最初に赤堀正明当研究所所長より基調報告「Information統一教会」、続いて基調講演①として櫻井義秀師より「宗教リテラシーについて」（七日）、基調講演②として紀藤正樹氏より「魂の救済―統一教会等カルト的宗教団体の被害者救済の現場から見えてくるもの―」（八日）と題する講演をいただきました。七日午後から四分科会に別れ、座長とそれぞれの問題提起者のもと会議を行いました。第1分科会では「マインドコントロール」をテーマに、マインドコン

トロールに対する正しい知識と理解について討議、第2分科会は「新法（法人等による寄附の不当な勧誘の防止等に関する法律）の成立とその背景」と題し、靈感商法の問題「不当な勧誘」という言葉の持つ意味、それらと新法との関係について議論しました。第3分科会では「宗教二世について」をテーマに彼らが抱える諸問題について議論し理解を深めました。第4分科会では「宗教リテラシー」をテーマに私たち宗教者自身のリテラシー（僧侶が身につけるべき宗教知識）をより深め、涵養するためにどのような視点が必要であるのか話し合われました。各分科会の話し合いの詳細は今号本文をご覧ください。

▼第二十四回日蓮宗教化学研究発表大会は令和五年十一月二十七日、午前十時より宗務院五階講堂にて開催されました。午前から午後にかけて六名の研究発表があり、引き続きパネルディスカッション「多様化する現代の宗教」を開催、パネリストとして井上順孝氏（國學院大學名譽教授）、丹羽宣子氏（中央学院大学非常勤講師）、間宮啓壬師（富山県立像寺住職・現宗研特別研究員）、赤堀正明師（現代宗教研究所所長）が登壇し、「現代宗教」における多様性、日蓮宗門における多様性についてパネル発表と議論を行いました。詳細は本文をご覧ください。